

脳のはなし



物忘れ 認知症

アルツハイマー病

が気になりだしたら

第3回

ついに登場！

脳の「ごみ」を取り除く薬

前回は、認知症の原因となる「脳のごみ」が検査で見えるようになってきたお話をしました。今回は、その「ごみ」を取り除く治療が、いよいよ現実になってきたという最新の話題です。

る働きを持つています。まさに、脳のごみを「マキングして外に出す」ようなイメージです。日本でも最近、両方の薬が使えるようになりました。

認知症の原因のひとつとされる「アミロイドβ」という「ごみ」は、脳に少しずつたまって神経細胞の正常な働きを妨げるようになります。これを

取り除くことができれば、認知症の進行を遅らせたり、止めたりできる可能性があります。その「脳のごみ」を掃除するために開発されたのが、抗アミロイドβ抗体医薬と呼ばれる新しいタイプの薬です。

代表的なものに、レカネマブとドナネマブがあります。どちらもアミロイドβにピタッとくっつき、体の外へ排出されやすくなる時期の方です。症

これは認知症治療の長い歴史の中で、大きな転換点となる出来事です。さらに最新の研究では、早い段階で治療を始めた患者さんでは、病気がほとんど進行しなかったり、記憶のテストが改善したりする例もあることがわかってきました。つまり、「症状をやわらげる薬」の時代から、「原因に働きかける薬」の時代へと進みつつあるのです。

一方で、この薬は誰でも使えるわけではありません。対象となるのは、認知症の「ごく初期」の段階、または「軽度認知障害（MCI）」と呼ばれる、もの忘れが始まりつつある時期の方です。症

状態が進んでしまった段階では効果が期待しにくいいため、早期に見つけ、早期に治療を始めることがとても重要です。もちろん、副作用の確認のために定期的なMRI検査が必要で、専門の医師の管理のもとで慎重に使う必要があります。

また、当初は「脳にむくみや出血が起る副作用」が心配されていましたが、日本人では発生率が海外より低いことが分かっています。専門の医師の適切な管理のもとで、安全に治療を受けられる可能性が高まっています。認知症は「進行を止められる病気」に近づきつつあり、治療の選択肢は確実に広がっています。次回は、こうした新しい治療をより効果的にするために、日常生活の中でできる「脳を守る工夫」についてご紹介します。どうぞお楽しみに。

山野嘉久 やまの よしひさ

聖マリアンナ医科大学
脳神経内科 教授・医学博士

脳神経内科医として、ウイルスによる脳や神経の病気を長年研究し、診療ガイドラインの作成にも携わるなど、診療と研究の両面で活動している。日常生活に役立つ「脳の健康のヒント」をお届けします。

